

## JCHO 東京新宿メディカルセンター 初期研修医 プログラム 【案】

### 一般目標 GIO

脳神経外科疾患を通じて神経疾患の基本的知識と技術の取得を目指す。神経疾患や意識障害の初期診断を行い、適切な対処が出来るようになる。脳神経外科診療に必要な基本的手技を習得し、チーム医療の一員として行動できるレベルに達することを最終目標とする。

### 行動目標 SBOs

初期診断に必要な問診をしてカルテ記載が出来る。

神経学的診察ができ、カルテ記載ができる。

脳神経外科患者の重症度を判断して、適切な初期対応が出来る。

必要な画像検査が選択でき、その画像所見の読影と解釈が出来る。

脳神経外科診療に必要な基本的手技を習得する。

基本的な手術で助手を務めることが出来る。

周術期を含めた全身管理が出来る。

カンファレンスにおいて、脳神経外科としてのプレゼンテーションが出来る。

### 研修方略 (LS)

患者の意識レベルを迅速に把握し、神経学的重症度を Japan coma scale、Glasgow coma scale、NIHSS を用いて評価する。

診断に必要な情報を患者や家族から聴取し、カルテ記載する。

身体的所見・神経学的所見を適切にとり、カルテに記載する。

診察結果から考えられる疾患の鑑別疾患を列挙する。

検査を立案し、過不足なく依頼する。

神経放射線検査結果を評価する。

外科的な基本手技（消毒、縫合）を習得・実践する。

腰椎穿刺の手技を習得し、実践し、検査結果を評価する。

気管内挿管、中心静脈カテーテル穿刺、気管切開、脳血管撮影の手技を習得する。

穿頭洗浄術、脳室ドレナージ術において、助手あるいは術者として手術に入る。

開頭手術の助手として手術に参加する。

指導医・上級医の指導のもとで、周術期患者の診療にあたる。

救急を含む脳神経外科領域の診療に積極的に参加する

チームの一員として、周囲との良好な関係を構築する。

基本的疾患の病状を患者の家族に説明できる。

#### 研修評価

##### 自己評価

- ・患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する。
- ・EPOC システムを用いて自己評価する。

##### 指導医による評価

- ・EPOC を用いて診療科を評価する。他者評価表を用いて指導医を評価する。
- ・病棟/救急診療、手術、各種検査、カンファレンスを通して指導医が研修評価表を用いて研修医を評価する。

##### 研修医による評価

- ・EPOC を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

##### 看護師による評価

- ・接遇などの面では、看護師からの評価も反映する。

#### 経験してほしい症例

くも膜下出血(破裂脳動脈瘤、脳動静脈奇形など)

高血圧性脳出血

頸動脈狭窄症(頸動脈内膜剝離術)

未破裂脳動脈瘤

急性硬膜下血腫

急性硬膜外血腫

慢性硬膜下血腫

脳腫瘍(悪性/良性)

脊椎・脊髄疾患

#### 期間

1～3ヶ月